



「きちんと洗って、しっかり治そう！」

## 薬浴(薬用シャンプー療法)のポイント

皮膚の健康を保つために、また皮膚病の治療・管理においてもシャンプーはとても重要です。特に個々の皮膚トラブルにあわせて、適切な薬・成分を含む薬用シャンプー剤・リンス剤で薬浴することは、大変有効であり、時に治療のため不可欠ですらあります。

近年、アトピーなど慢性的な皮膚の問題を抱えるペットが増加しており、診察の上、薬用シャンプーを処方し、家庭でシャンプー療法をお願いすることが多くあります。少し大変かもしれませんが、皆さんが思われる以上に薬浴は有効なので、是非がんばって下さい。

今回は、我が家のゆずをモデルに、薬浴のポイントについて説明しようと思います。

### 薬浴の手順

1、準備をする(シャンプー剤、リンス剤、タオル、ドライヤー、ブラシなど)

2、皮膚の状態をチェック

あらかじめ、**悪いところを確認**し、**重点的**に洗うようにしましょう。

3、十分にぬらす



湯温は、**低めのぬるま湯**がポイント(人肌で確認)。温度が高いかゆみを引き起こす場合があります。水洗いする位のつもりで、**毛の根元まで十分にぬら**しておきましょう。

4、予備洗い(一度目洗い)

予備洗い(一度目洗い)の目的は、**皮膚の機械的な洗浄(フケや垢、かさぶたやゴミなど汚れをとること)**です。市販の動物用シャンプーなどを用いても可。汚れが軽い場合は省いてもよいでしょう。



5、すすぎ

高いところから順にすすぎましょう。一度目のシャンプー剤を落とす程度でokです。

6、本洗い(二度目洗い)



本洗い(二度目洗い)の目的は、**薬用成分の接触・浸透**です。**薬用シャンプーを問題のある部分からつけ**、もみこむように洗いましょう。全身を洗い終わったら、**規定の時間(シャンプー剤による)おき**、**薬用成分を接触**させます。



7、すすぎ



**低めのゆるま湯**で、**十分にすすぎます**。シャンプー剤が残りやすい**顔や脇、内股、指間は特に注意**してしっかり流しましょう。洗剤成分が残ると、皮膚に刺激をあたえる恐れもあります。小型犬で最低5分以上はシャワーしてください。

## 8、リンス・コンディショナー

スプレータイプ・シャンプー剤に含まれている場合もあります。

## 9、タオルドライ、風乾

タオルで拭いた後、**ドライヤーとブラシ**を用い**毛の根元からしっかり乾かしましょう**。乾燥不十分なままでは細菌が繁殖しやすくなったり、皮膚病にとって逆効果になる場合も。ドライヤーが苦手な場合、高いところに載せる(飛び降り注意)、弱め・低めの風を使うなど工夫してみましょう。

